桑名市立多度学園
たどっ子だより
令和８年10月13日
No.27

多度学園祭「体育的行事」に向けて

「燃やせ情熱 輝け青春（アオハル） つなげ笑顔のバトン」の第２弾の後期課程「体育的行事」が明日に迫りました。生徒は、これまでに新しいフィールドでの各種競技を考え、それぞれの役割分担のもとリハーサルを行い、限られた時間の中で着実に準備・練習を重ねてきました。特に、学級対抗の「大縄」では、なかなか回数が伸びず、作戦を練り、縄の回し方を工夫改善しながら、全員での掛け声で心ひとつにして跳ぶ練習を繰り返していました。すでに練習の中に「情熱」と「青春（アオハル）」を見ることができています。お天気が少々心配ですが、当日本番も精一杯力いっぱいの姿を見せてほしいと思います。保護者の皆様も、お時間が許せば是非ご観覧ください。駐車場や観覧場所につきましては、ご不便等おかけしますが、何卒ご理解いただきますようお願いいたします。







９年生「大縄」練習の様子

交通安全ポスター金賞（三重県知事賞）
２年　岡田　紬来 さん



桑名市防火ポスター優秀賞
５年　藤井　夏澄 さん

桑名市防火ポスター優秀賞
７年　伊藤　瑠夏 さん

子どもたちの学びの場

毎年秋になると、文部科学省から小中学校における全国の不登校児童生徒の人数が示されます。昨年度も報道で、不登校児童生徒は３５万人を超え、

１２年連続で過去最多を更新したと数字が出ていました。これだけ増加する原因は何か究明しようとする報道等もありますが、これだけ多様化する社会の中で生きる子どもたちにとって、何かしらの息苦しさや不安を抱え、学校へ行きづらくなっていることもありますし、原因が特定できず心身の不調をきたしていることもあります。原因は一括りにできず、する必要もないと思います。子どもたちの学び場や居場所は、学校だけではありません。教室とは違う別の環境であれば、自分に合った生活や学習ができる子もいます。教室や学校に行くことがすべてではなく、今休息が必要な子は、休息できる環境が必要で、自分のペースで自立に向けて考え努力することができればそれでいい、その子なりの進むペースがあると考えます。文部科学省は、「COCOLOプラン」という指針のもと、「不登校の児童生徒全ての学びの場を確保し、学びたいと思った時に学べる環境を整える」としています。行政だけでなく、学校、地域社会、各家庭、NPO、フリースクール関係者等が、相互に理解や連携をしながら、子どもたちのためにそれぞれの持ち場で取組を進めることが必要だとしています。学校では、校内教育支援センター「プラス」を設置し、通室を希望する子どもたちの状況や意思を大切にしながら、「今」が充実するよう、少しずつ過ごし方や時間帯を工夫しつつ、運営しています。行政では、桑名市教育支援センター「ふれあい教室」を運営し、「ふれあい教室までは距離があって通えない」「ふれあい教室へは足が向かないけれど思いを聞いてもらったり話をしたりしたい」という子どもたちのために、訪問指導員「Ｉあいフレンド」による訪問支援制度もございます。ニーズに応じて紹介もできますので、気軽に学校へ、または桑名市教育研究所（℡24-1242）へご相談ください。



桑名市教育支援センター「Ｉあいフレンドパンフレット」より抜粋